

## 年頭にあたってのご挨拶

一般社団法人 日本ねじ研究協会  
会長 澤 俊行

新年明けましておめでとうございます。日本ねじ研究協会会員の皆様にとって 2026 年がより良いお年でありますようお祈り申し上げます。

日本ねじ研究協会は会員の皆様のご協力を得て今年も更なる飛躍の年にしたいと念じております。本会定款に述べられているように、研究団体として学術研究力と技術力の向上を図り、各種産業への貢献を目指すことが目的であります。このために本会の各委員会の活発な活動と進展成果を目指し、これにより学術研究力と技術力の向上とその普及を常に目指したいと思います。

椿省一郎前会長の指示により、日本学術会議の「協力学術研究団体」の指定を受けるべく永井前事務局長と引き継いで頂いた古田事務局長および永井事務局職員の尽力および会員の皆様のご協力の下に準備を着実に進めて、2024 年 12 月下旬に日本学術会議へ申請の手続きを行いました。その結果、2025 年 3 月 31 日付で、日本学術会議の光石衛会長名で、「本会を日本学術会議の協力学術団体に指定する」旨の文書を頂きました。

この指定制度は 2005 年 10 月から開始されており、当時の記憶では研究団体は申請すれば指定（当時は称号と言っていた）されるものと考えておりました。それだけ多くの学会協会が当時は当然のように称号を取得しました。その後 10 年程度でかなりの学協会が指定されたと言われています。本会はやや遅ましたが、どうにか研究団体として公に認められる協会になりました。

繰り返しになりますが、申請条件の大きなポイントは二つで、①は個人会員が 100 名以上で、個人会員の自主的な運営がなされている条件です。現在個人会員数の条件を満たすためにアクティブな会員の努力により、かろうじて個人会員数 104 名に達しました。しかし、年度末になると減少する傾向にありますので、更なる増加が欲しいところです。会員増強に関して、会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げる次第です。二つ目は、②研究論文集を定期的に発行していることが大きな必要事項です。2023 年にはじめて論文集として第 1 巻 1 号及び 2 号を発行しました。2024 年 11 月に第 2 巻 3 号を、2025 年 11 月に第 3 巻 4 号を発行しております。継続的には発行されていますが、今のところは論文数が必ずしも多くはありません。今後徐々に研究を行う会員も増えてくると推測され、投稿論文数も徐々に増えると

期待しています。会員の皆様にも是非奮って論文の投稿をお願い申し上げます。同時に今回の日本学術会議の「指定」により、本会の研究論文集に掲載された論文は、自称論文から公に認められる論文となります。さらにこの研究論文集と対応して、論文講演会として毎年11月に「ねじ研究シンポジウム」が開催されています。若手技術者の参加発表も多くみられ、討論も活発なようです。今後このシンポジウムで発表した講演論文をさらに本会の前述の研究論文集への投稿も期待されます。

いずれにせよ、「指定」を受けましたが、これは今後本会がさらに発展するための「入口」で、さらなる研究基盤の強化拡充と研究を推進できる高度研究人材の育成が望まれるところであり、今後本会の研究関係委員会での活発な研究活動を通してそのような高度研究人材が育成されると期待しています。

さらに日本の経済状況も、例えばGDPの世界ランキングも相対的に低下の傾向のようであり、同じく研究状況の世界的ランキングも相対的に低下傾向だと言われています。我々を取り巻く状況は必ずしも明るい訳ではないようで、「科学技術創造立国」を国是とする我が国において、我々ができる一つは「ねじ分野」における研究力と技術力の向上により、国内の各種産業の進展に貢献することだろうと思われます。これをを目指した活動を含めて、関連する分野の活動も同時に活発化させ、本会の発展を目指したいと思います。

終わりに会員の皆様のご発展をご健勝を祈念すると共に、本年も当協会へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます